

# 難波宮跡第93次調査

(大阪府道高速大阪東大阪線の通過に伴う調査Ⅱ)

説明会資料

1976年8月



橋脚MP-5-9調査区域全景(南西から)

高速大阪東大阪線難波宮跡調査会



## I. 調査にいたる経過

昭和41年に、難波宮跡の中心部を横断して高速道路「府道大阪東大阪線」の建設が発表されたことから、宮跡の保存と高速道路の建設をめぐって論議を呼ぶことになった。以来両者を調和・両立させるために関係者（文化庁・大阪府教委・大阪市教委・大阪府土木部・大阪市総合計画局・阪神高速道路公団・大阪府警察本部など）の間で協議が続けられ、迂回案やトンネル案、さらに吊橋による長大橋案などが8年にわたって検討された結果、宮跡の主要部に与える影響も少なく、宮跡を整備する上で景観をそこなうことも少ないという理由で「平面案」が採用されることになった。

それによると建設済の高架部分からスロープで平面におり、中央大通の中央を227mにわたって通過、再びスロープで既設の高架上にもどるというものである（図1参照）。

この高速道路建設予定区域は、難波宮跡の内裏・朝堂院の中心部にあたるとともに、飛鳥時代の難波宮下層遺跡や中・近世の石山本願寺・大坂城跡が遺存する区域でもあるが、今回の高速道路工事によって7基の橋脚部分の遺構は完全に消滅する上に、その他の区域も半永久的に調査の機会が失われることになるので、大阪府・市教育委員会は協議の上、「高速大阪東大阪線難波宮跡調査会」（理事長 岡井大阪市教委教育長）を設立し、建設区域内の遺跡調査を実施することになった。

ところで公団の当初設計案では、遺構面が現車道面下80cmと想定されていたが、これまでの発掘調査の結果からみて、それよりも浅く遺構面が出土する可能性が考えられたので公団に要請して遺構深さを調べるための試掘調査を実施させた。試掘調査は昭和50年4月に、遺構が浅く残っていると想定される農林会館から近畿電々ビル間290mの中央分離帯部分を選んで、幅1m、深さ1mのトレンチを人力で掘削し遺構面の深さを調べた。その結果、一部で車道面下50～80cmで遺構面が検出されたので、公団の当初設計案を再検討させ、工事に伴う遺構面の破壊を防ぐために、西側壁式橋脚部分を全面的に50cmかさ上げさせるとともに、平面高速道路部分については、部分的に設計変更することを約させた。

また、遺構破壊が前提となる橋脚部分については、交通安全上必要最少限度に減らすことを要請し、森之宮ランプ西側では、当初計画の6箇所を5箇所に変更させるなど工事に伴う遺構の破壊を最少限度に止めることに努力した。

## II. 調査計画

発掘調査は昭和50年6月1日から昭和53年3月31日まで2年10ヶ月にわたって工事と並行してすすめられるが、法円坂～森之宮ランプ間約800mの範囲のうち、

1. 橋脚MP-2～MP-5間の中央分離帯部分の調査
2. 7基の橋脚部分の調査
3. その他の調査可能な部分の調査
4. 附帯工事を含む工事区域全域にわたる試掘・立会調査を実施することになっている。

これらの調査は通過車輛一日8～10万台と言われる交通量の大きい東西幹線道路「中央大通」路上でおこなわれるだけに、交通処理上、調査の安全確保上種々の制約が伴う上に、調査面積、調査日数等にも一定の限度があって、きわめて困難な調査になると思われるが、

1. これまでの調査成果に基づいて、調査範囲内に想定される遺構の実態をできるかぎり明らかにすることに努める。
2. また、従来道路下になっていたために未調査のまま残されていた部分については、この際できるかぎり未知の遺構の探索に努め、今後の難波宮跡の保存に資することを調査方針としている。

## III. 第93次調査概要

上記の調査計画のうち中央分離帯部分と歩道切削に伴う立会・試掘調査を難波宮跡第75次調査として昭和50年6月16日から昭和51年3月6日まで実施した。その調査成果と問題点については、昭和51年4月3日に説明会を開いて発表した。

高連大阪東大阪線難波宮跡調査会「難波宮跡第75次調査(人阪府道高速大阪東大阪線の通過に伴う調査)説明会資料」1976年4月。

この調査に引続いて7基の橋脚部分の調査に入ることになったが、中央大通の交通処理上橋脚部分を一度に調査することが出来ず、北側・南側・中央の三回に分けて調査を実施することになった。このうち橋脚北側部分の調査を難波宮跡第93次調査として昭和51年4月5日より7月20日まで実施した。調査は、難波宮跡調査会調査主幹中尾芳治(大阪市教育委員会主任学芸員)を担当者とし、調査員広瀬雅信・藤田幸夫(難波宮跡調査会)、松尾信裕の3人が主として調査に当たった。

調査の実施に当たっては、難波宮址顕彰会の援助と阪神高速道路公団および調査工事を担当した株式会社間組の協力を得た。記して謝意を表したい。

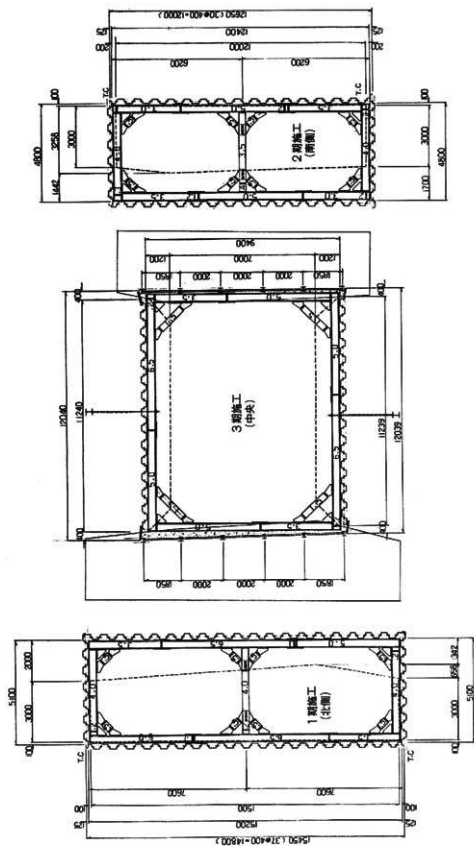


Fig. 1 機測MP-1山留平面図

発掘調査の予定されている橋脚部は、MP-1・2・5・6・7・9（図1参照）の7個所で、3回に分割しておこなわれる調査区域の平面形状図(MP-1の場合)およびその面積はFig. 1、表1の通りである。

表 1

	第1期(北側)	第2期(南側)	第3期(中央)	合 計
MP-1	82.7㎡	63.9㎡	77.7㎡	224.3㎡
2	70.2	52.5	67.3	190.0
5	88.8	70.2	65.4	224.4
6	86.7	89.8	64.7	241.2
7	89.5	87.9	64.7	242.1
8	76.5	95.0	70.9	242.4
9	74.9	91.9	73.8	240.6
合 計	569.3	551.2	484.5	1605.0

なお橋脚部分の調査深さは、調査の安全や地下鉄中央線の構造物との関係で、現車道面より4.5mまでとなっている。

第93次調査として実施した橋脚北側部分7個所から出土した主たる遺構・遺物は表2の通りである。

**難波宮跡** 調査位置・面積・深さの関係や後世の擾乱のためと思われるが、MP-1・2で整地層の一部が、MP-5で掘立柱跡2個所が検出されるに止まっている。

- ①今回MP-5橋脚北半部で検出された掘立柱は2個所で南北に並んでいる。北側掘形は東西1.60m、南北1.31m、南側掘形は東西1.66m、南北1.81mで、両者の柱間寸法は約3m（10尺）と推定できる。
- ②掘形の大きさや柱間寸法およびその方位からみて難波宮の掘立柱列であると思われる。
- ③その出土状況から考えると、東・西を面する南北方向の一本柱列（櫓成いは上堀・築地）である可能性強いが、南北棟建物の西側柱列である場合も考えられる。
- ④この柱列は難波宮の方位と一致し、その中軸線より東へ321.8940mの距離にあるが、これは条里制3町の距離に相当する。
- ⑤後期難波宮の宮内地割は条里制1町（約106m）を単位とするものと考えられる(内裏外郭築地は中軸線より1町、十二堂院築地東西幅は1.5町)ことからみて、この柱列は中軸線より東3町の位置に設けられた宮城東部を東・西に面する柱列で、市立中央青年センターから、国立衛生試験所にかけて存在の予想される後期難波宮の遺構と関係の深い遺構と思われる。
- ⑥地形的にもこの柱列の少し東側（森の宮勝山線）辺で、一段下っており、こうした隔壁

の設けられることの可能性を示している。

以上のような柱列の重要性にかんがみ、大阪府・市教育委員会は、柱列の保存方法の検討を阪神高速道路公団に要請した結果、橋脚位置を西にずらせる以外にないとの結論が出された。その時点で橋脚位置を変更することには多くの困難を伴ったが、幸い公団の協力を得て橋脚位置を7m西にずらせることにより、上記柱列を保存することができた。関係各位のご協力で心から謝意を表したい。

**難波宮下層遺跡** MP-1・2で難波宮整地層の下から難波宮下層遺跡の遺物包含層が検出され多数の須恵・土師器片が出土したほか、MP-1・5・6では地山を切って作られた掘立柱建物址や竪穴式住居址の一部、溝址、土塚などが検出された。

(MP-1)難波宮整地層下の包含層中より、須恵蓋坏内に滑石粗製子持勾玉1、滑石製小玉37が入った状態で出土し注目された(Fig.2)。同様の子持勾玉は、昭和36年にMP-1北側のNHK大阪放送会館建設工事に先立って実施した第14次調査の際に下層遺跡の竪穴住居址(?)内より出土している。

また、現在国立大阪病院構内で実施中の第97次調査でも、滑石製小玉が蓋坏内に入れてあったと推定される状態で出土している。第14次調査ではやはり下層遺跡包含層より小型粗製の高杯形・埴形土器が出土していて、滑石製子持勾玉・小玉と共用された祭祀の存在が推定できよう。

中尾芳治「難波宮遺跡の遺跡調査報告」、『難波宮址の研究』5の2、1963

掘立柱建物は小形の方形掘形で、柱間寸法1.0m～2.0mほどの小規模なものであるが、発掘面積の小さいこともあって全体の規模は不明である。その方位や重複状況からみて2～3時期に細分できる。このほか掘立柱建物との共存状況は必ずしも明確でないが、円形や不整形の土塚、溝など検出されている。発掘区域の東北隅で一部検出された竪穴住居址は、その重複状況からみて、下層遺跡中最も時期の遡るもので、埋土中には須恵・土師器片が完形に近いものも含めて充満していた。

今回検出された遺構は、第14次調査で検出された下層遺構に連続するものであり、伴出土器型式も第14次調査のそれに一致している。

(MP-6)MP-1で検出されたものとはほぼ同方位(北北西-南南東)で5棟以上の掘立柱建物址が検出されているが、全体の規模は不明である。

難波宮下層遺跡については従来その時期、規模、性格などが注目されながら、検出された遺構が断片的でその全体像がつかみにくいことなどからその研究はようやく緒についたばかりである。今回の調査によって検出された遺構、遺物も調査の性格上部分的なものに止まらざるを得なかったが、今後の研究に十分生かしていきたい。

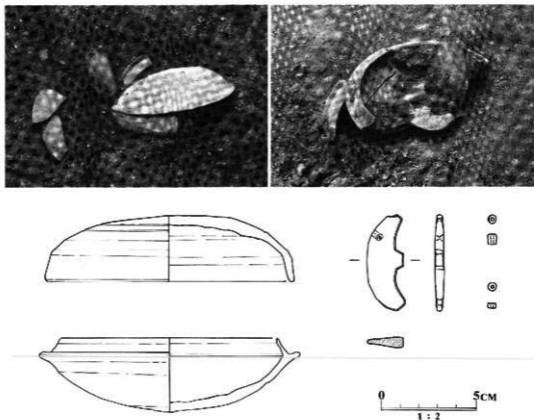


Fig. 2 上、MP-1下層遺跡遺物包含層出土の須惠蓋杯内に納入された、滑石粗製子持勾玉、同小玉出土状況。下、両実測図。

**中・近世遺構** これまでの難波宮跡の調査の過程で、石山本願寺や豊臣・徳川両氏大坂城にかかわると思われる遺構・遺物が検出されている。しかし従来調査の重点が難波宮跡におかれていたこともあつて、中・近世の遺跡に対する調査は不備をまぬがれなかった。今回は調査後遺跡が消滅することもあり、中・近世の遺構・遺物についてもできるだけ綿密に調査することに努めた。ただ調査面積の制約もあり、出土遺構が部分的なものに止まらざるを得ず、その年代や性格の決定については今後の整理と調査にまつべきものが多い。

MP-8では、GL-約3.5m(OP+約14.5m)で、火災に遭った礎石建物跡(Fig. 3)とそれを整地した後に形成された旧地表面を検出するとともに、陶磁器など多数の伴出遺物を得た。昭和46年から47年にかけて実施した森之宮西之町遺跡第1次調査でも、OP+約14.5mで石積基壇跡が検出されている。

森之宮西之町遺跡発掘調査団「森之宮西之町遺跡第1次調査概報」1972・3

MP-8の所在する現東区森之宮西之町一帯は、豊臣氏大坂城の三之丸の一画に当たり、大名屋敷があったところと伝えられる。慶長19年(1614)の大坂冬の陣の和睦の結果、三



之丸は濠ともども破却され、翌年の夏の陣によって焼亡した。豊臣氏滅亡後、大坂城主に任ぜられた松平忠明は、豊臣時代の旧三之丸を壊平して市街地として整備し、伏見の町人などを移して大坂の復興に努めた。

MP-8で検出された遺構・遺物の状況から推測すると、火災痕跡のある建物跡は大坂夏の陣に際して焼失したもので、焼土・焼壁の混在した上層の整地層や西之町遺跡の石積基壇などは松平忠明の市街地整備にかかわらせて考えることも可能であろう。

石山本願寺や豊臣氏の大坂城は史上有名であるにもかかわらず、文献的にも考古学的にもその実態は必ずしも明らかではない。最近大阪城周辺の土木工事や難波宮跡の調査の際に種々の遺構・遺物が検出されており、その実態を解明する手がかりが得られるようになってきた。

今後の橋脚部分の調査の結果や、これまでに実施した森之宮ランプ工事に伴う諸調査、MP-6北側の難波宮跡第71次調査の結果などを総合することにより、大きな成果が得られることが期待できよう。

遺構の実測は今回も、アジア航測株式会社による写真測量によった。折込みの平面実測図は現在図化途中のものを利用したもので、最終的に完成されたものではないことをお断りしておく。

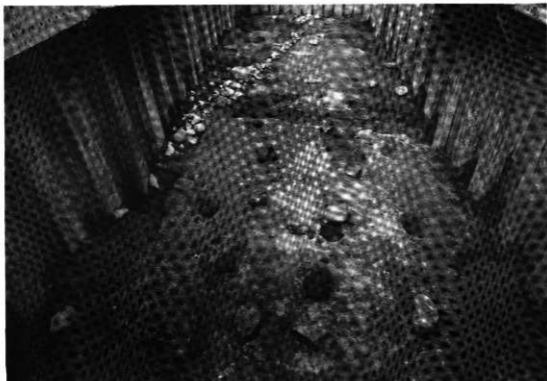


Fig. 3 MP-8出土、近世礎石建物跡および下層石列（西から）

表2 第93次調査出土遺構・遺物一覧

橋脚	写真測量 年月日	主たる出土遺構	主たる出土遺物
MP-1		近世旧地表面(版築状) 中世末~近世初頭遺物包含層(黒灰色有機土層)。	漆器、桶、下駄、木製品、瓦、陶器(瀬戸灰釉、瀬戸犬目、唐津、備前、少量の染付)、猫全身骨格他。
	76. 5. 18	中世土城群、井戸。	漆器、椀、曲物、ひしゃく、木材、下駄、シュロ櫛木、木製品、陶器(染付は含まず)、瓦。
	76. 5. 22	難波宮整地層上堆積層(茶灰褐色粘質土層)。	奈良時代瓦。土師・須恵器小片。
	76. 5. 26	難波宮整地層(I・II・III・IV) (遺構なし) 下層遺跡遺物包含層(黒灰色粘質土層)	I・II層=奈良時代瓦、土師、須恵器。 III・IV層=下層遺跡関係、土師、須恵器。 土師・須恵器(杯、高杯、甕、コシキ、土師他)多量。滑石粗製子持勾玉1、同小玉37。
		包含層上面掘り込みの平行する2条の東西溝。	土師・須恵器片。
	76. 6. 1	地山面掘込掘立柱建物群、(3棟以上とそれに伴う溝2条、 上記溝より古い溝2条。	土師・須恵器小片少量。
	76. 6. 7	竅穴住居址1、(地山粘土による張床、内底及び外周に柱穴状ビット群。プラン円形、径約4mと推定)。 地山(G.L.-約2.2m)	土師・須恵器(完形品あり) 土師・須恵器各器形のセット(壺、杯、高杯、鍋、羽釜、甕、他。)
MP-2	76. 4. 30	近世大溝(?)又は土城(?) 難波宮整地層、下層遺物包含層を検出したが遺構は認められなかった。	近世瓦、陶磁器、石臼、須恵器、土師器。
	76. 5. 6	地山上面に下層遺跡、杭跡。 地山(G.L.-約2.2m)	
MP-5	75. 5. 18	近世土城。	中・近世瓦、陶磁器。
	76. 5. 24	中・(近?)世整地の為の石多数 中・(近?)世の杭3、柱穴10、土城5、井戸1。	中・近世瓦、陶磁器。 下駄、桶種。
	76. 6. 7	後期難波宮欄柱穴2、(掘形内に時期不明のビット2)。	
MP-5 拡張部	76. 6. 16	下層遺跡柱穴4、小土城4。	須恵器、土師器。
	76. 7. 7	中・近世土城6、中・近世溝6、下層遺跡柱穴、土城4。(中・近世土城中2つは、内部に多くの瓦が詰まっていた)。 地山(G.L.-約2.1m)	中(近)世瓦、瓦器。
MP-6		近世掘立柱列、ビット群。 中・(近?)世大溝。(断面V字状、深さ約2m)。71次の大溝とつながる。(桃山末~江戸初期に埋められた) 中世ビット、集石土城群。	瓦片、陶磁器片。 瓦片、陶磁器片。
	76. 6. 28	難波宮下層遺跡掘立柱建物群6棟以上。 地山(G.L.-約1.5m)	瓦器、素焼羽釜形土器、瓦。

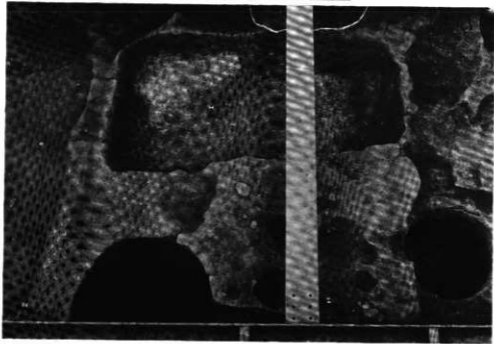
橋脚	写真測量 年月日	主たる出土遺構	主たる出土遺物
MP-7		大溝、(三次にわたる)。二次大溝内石敷及び石列。(徳川大坂域の石垣用の石を石敷の上に三個並べてあった。その中には「田」と墨書してあるのもあった)。近世整地層。(表土下より下層は、すべて整地層で、最も下の整地層より二次大溝内で検出された徳川大坂域の石と同じ物が検出された)。	瓦、陶器。 瓦、陶器。 瓦、陶器。
MP-8	76. 7. 13	地山(西端部でG L 約3.6m) 近世整地層。桶柿、井戸(?) (焼土、焼壁を多く混入した土で整地している)。	近世瓦、陶磁器(唐津、備前、瀬戸、志野、他)、灯明皿、漆器、下駄。
	76. 7. 16	近世整地層。建物礎石及び抜き取り穴多数、土壇1、水塀1、溝1、(整地上は北側は灰緑色粘土層、南側は褐色粗砂層である。土壇内に備前鉢片が置かれていた)。	近世瓦、陶磁器(備前大甕焼)、灯明皿。
	76. 7. 20	石列。(20~30cm大の石多数を北西→南東方向へ並べてある)。	陶器。
MP-9	76. 7. 16	近世旧地表面、(上層の整地層内にひとつの面があり、その上に1m大の花崗岩切石のついていた)。	旧地表面上層より、近世瓦、陶磁器、獸骨、魚骨、人の門歯。 旧地表面を形成する整地層より、瓦、金箔押瓦(菊文軒丸瓦片)。



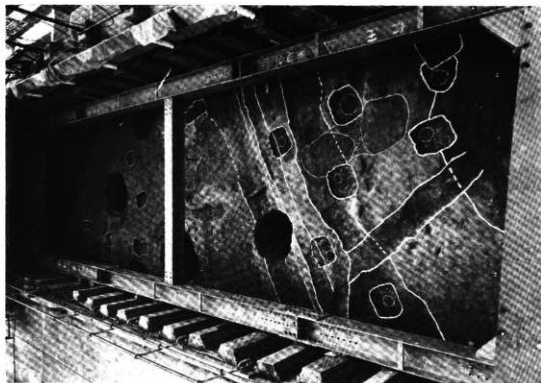
Fig. 4 MP-1・2調査区域全景(西から)



① MP-1 中世土塚・溝群  
および近世井戸  
(西から)



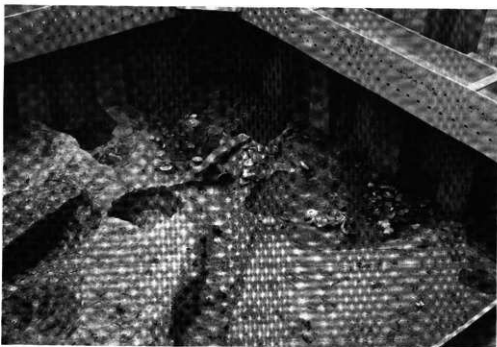
② MP-1 難波宮整地層上堆積層からの奈良時代瓦出土状況。(南から)



④ MP-1 下層遺跡掘立柱建物群、溝、土坑、壁穴住居址（東から）



③ MP-1 下層遺跡建物包含層上面の平行する2条の溝。（西から）

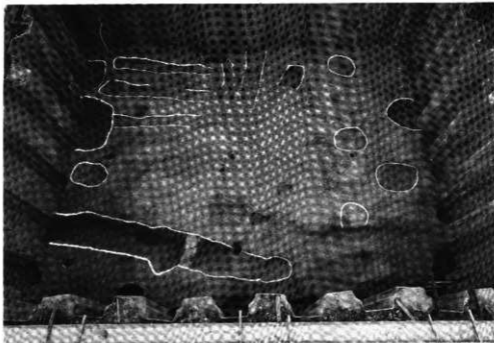


⑤ MP-1 下層遺跡  
穴住居址 遺物出土状  
況。(南西から)



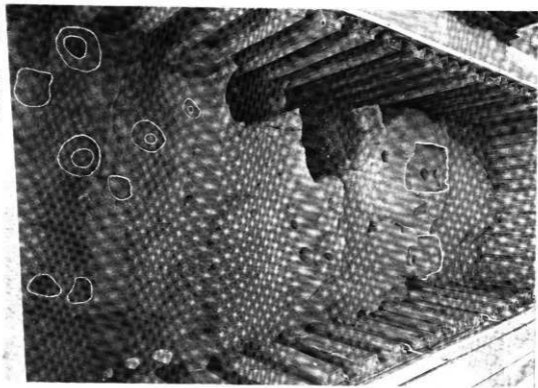
⑥ MP-1 調査後の穴住居址 (南から)

⑦ MP-2 発掘区域東  
端部の難波宮整地層遺  
存状況 (西から)

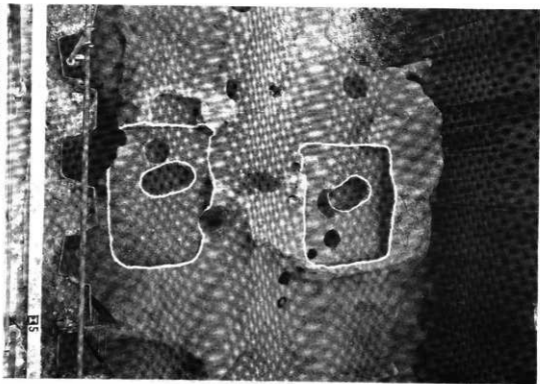


⑧ MP-5 拡張部 中・近世溝・土拵、下層遺跡柱穴 (南から)

⑨ MP-5 後期彌波宮南北柱列・下層補助柱穴 (西から)

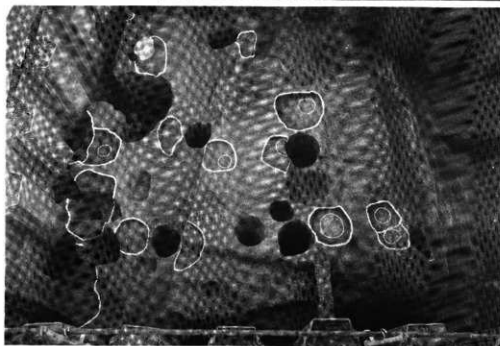
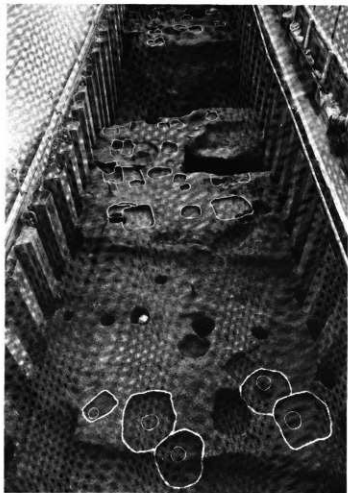


⑩ 後期彌波宮南北柱列柱穴 (南から)

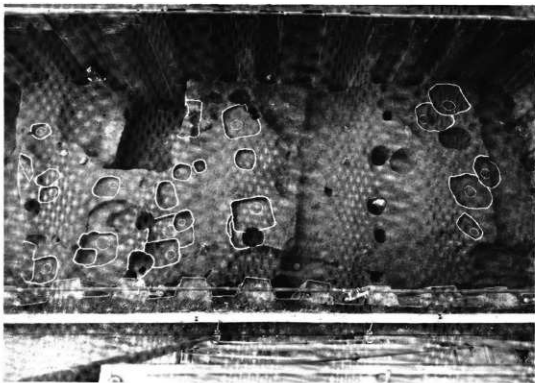




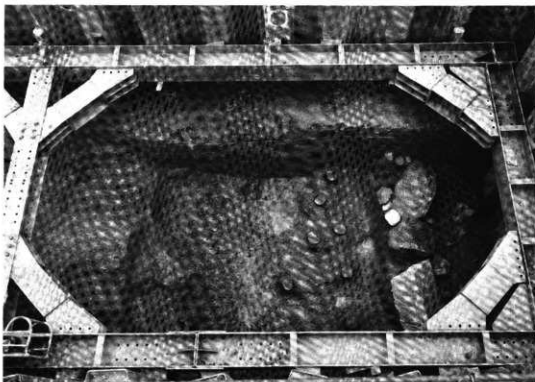
⑪ MP-6 全景。下層遺跡掘立柱建物群、中世大溝。  
(東から)



⑫ MP-6 西半部、下層遺跡掘立柱穴群、近世ビット群。(南から)



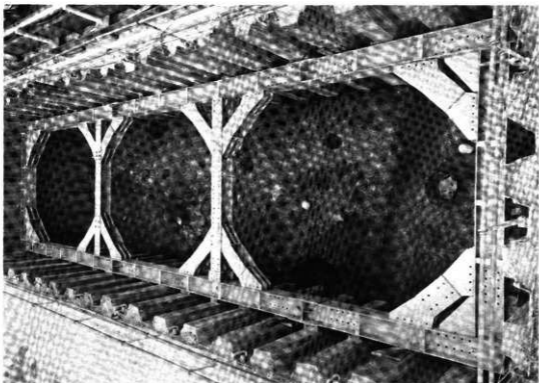
⑬ MP-6 東半部、下層遺跡掘立柱建物群、中・近世ピット群。(南から)



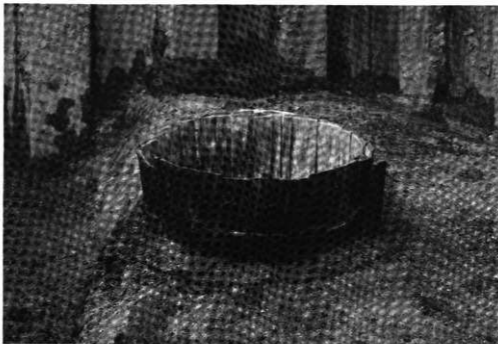
⑭ MP-7 二次大溝内石敷及び石列。



⑤ MP-8 近世礎石建物跡下層の石列出土状況 (東から)



⑤ MP-8 近世礎石建物跡 (東から)

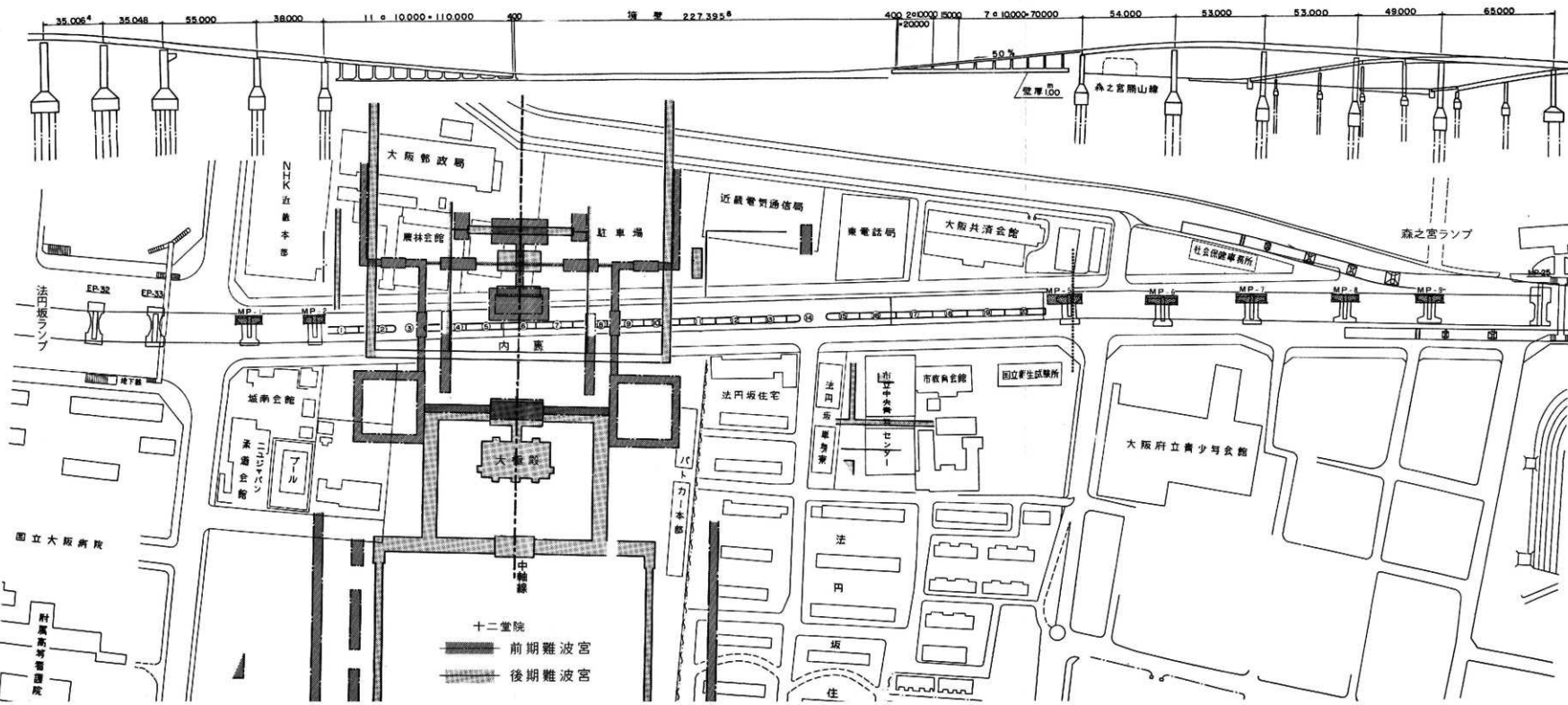


⑪ MP-8 近世桶枠出土状況。(南から)



⑫ MP-9 近世旧地表面。

図 1. 難波宮跡および大阪府道高速大阪東大阪線略図





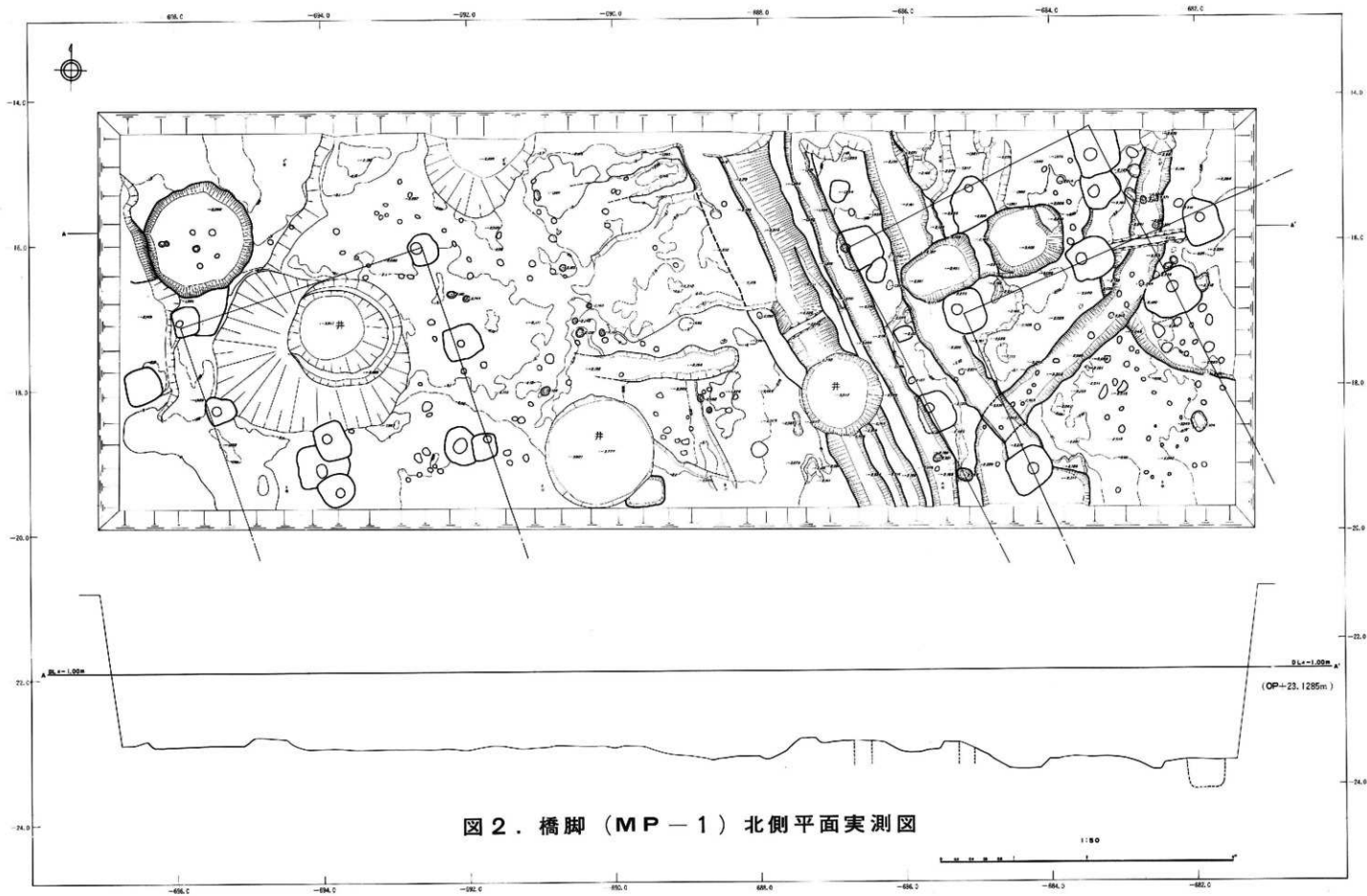


図 2. 橋脚 (MP-1) 北側平面実測図





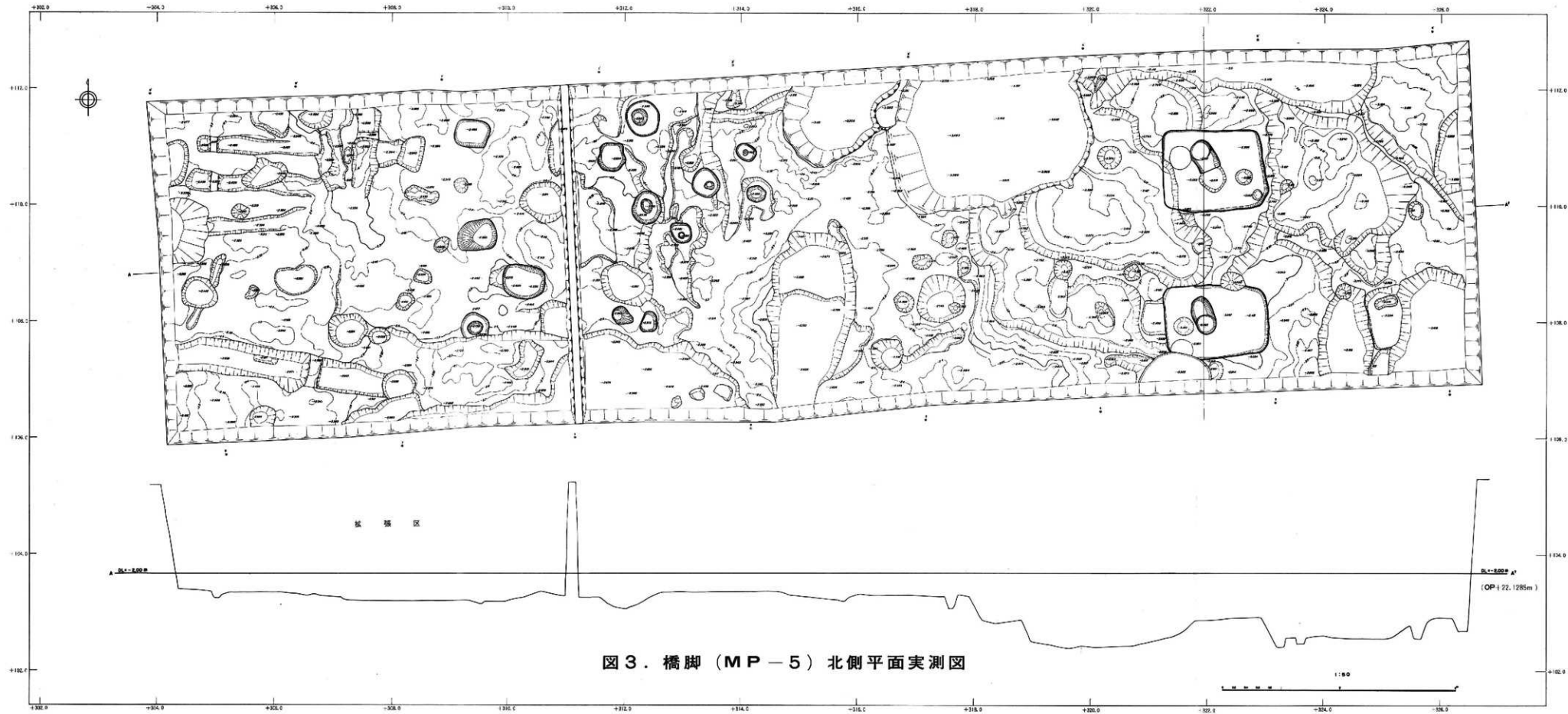


图3. 桥脚 (MP-5) 北侧平面实测图



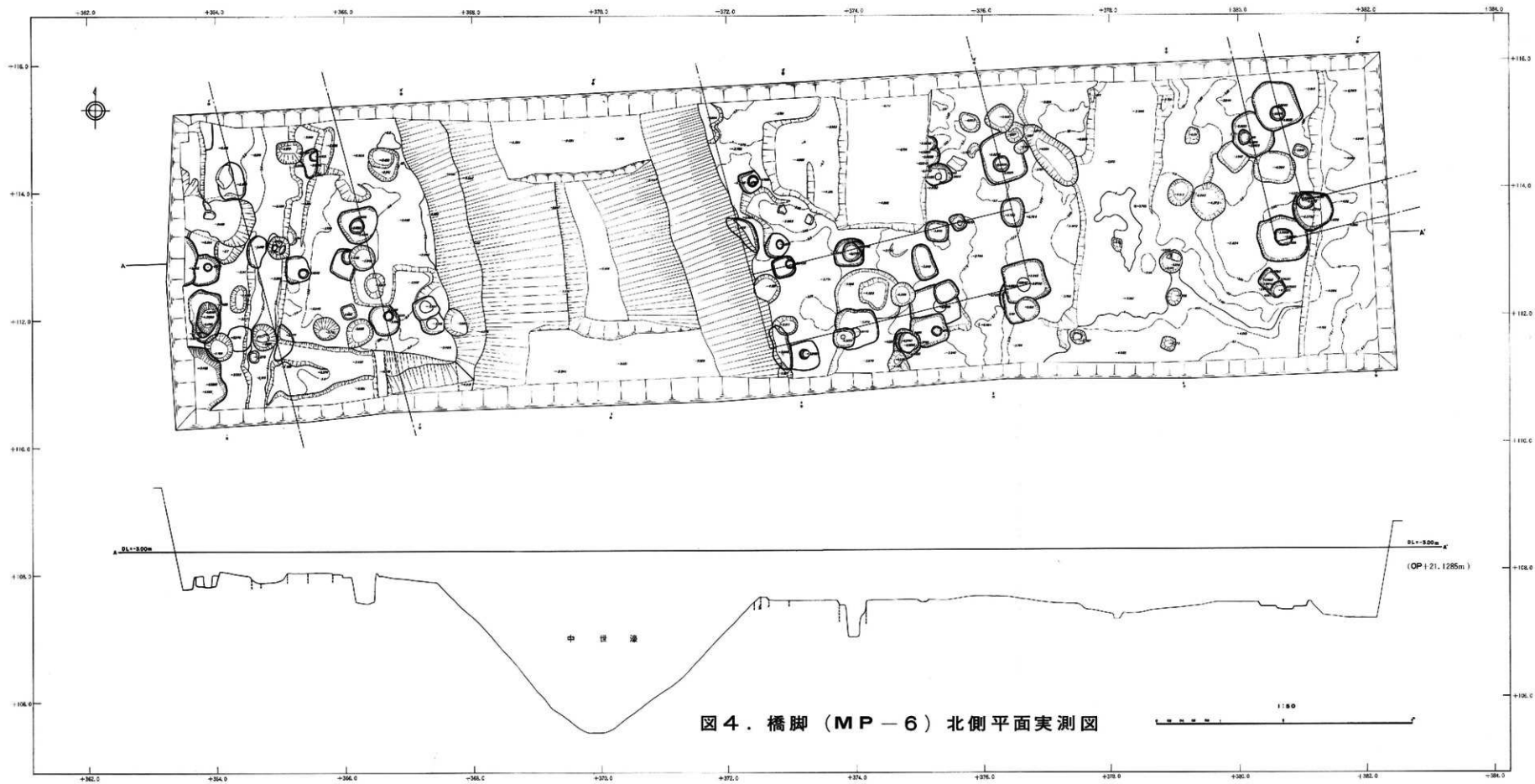


图 4. 橋脚 (MP-6) 北側平面実測図

圖本：標以 (3) 爲一圖例

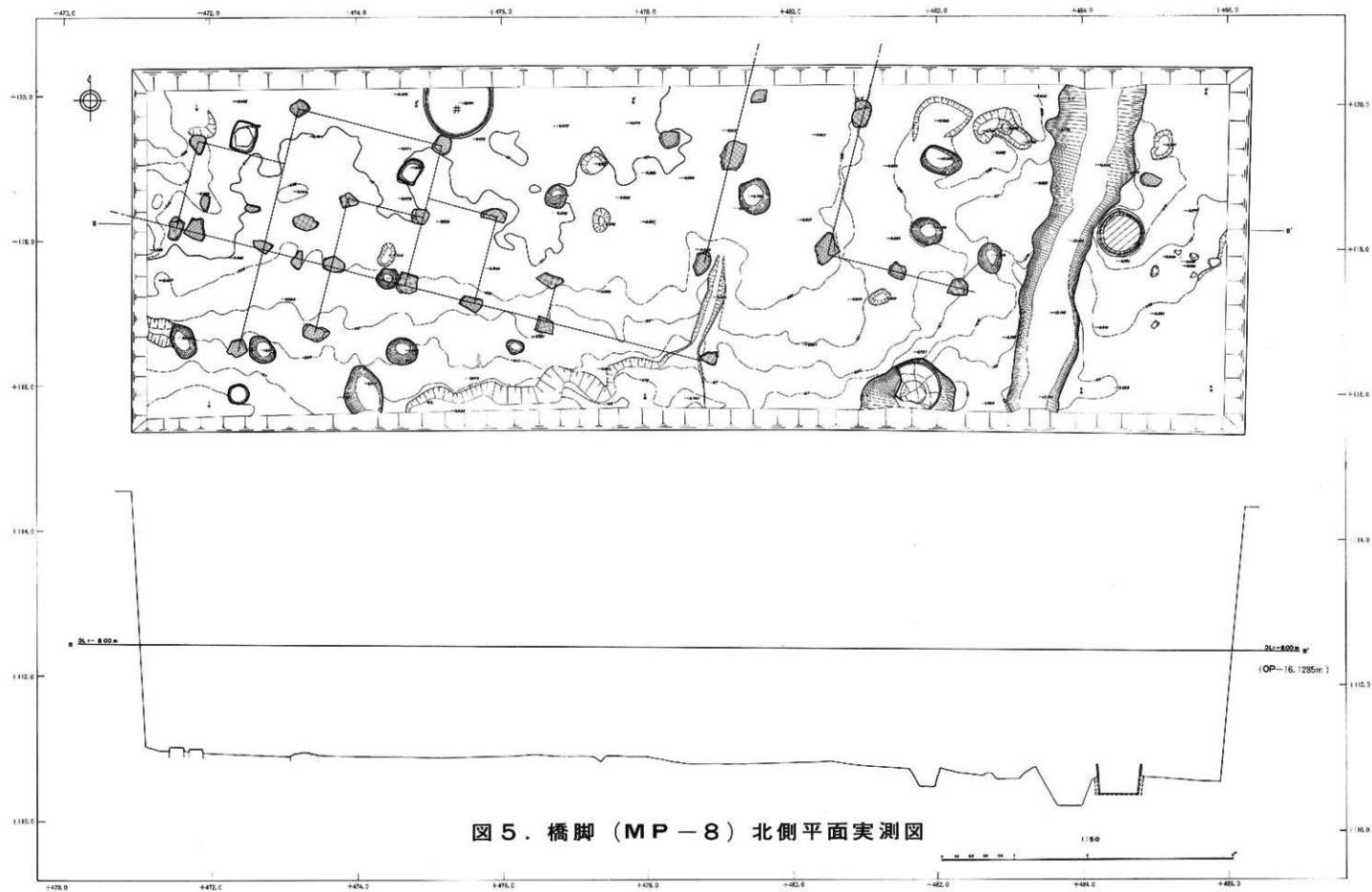


图 5. 桥脚 (MP-8) 北侧平面实测图





